

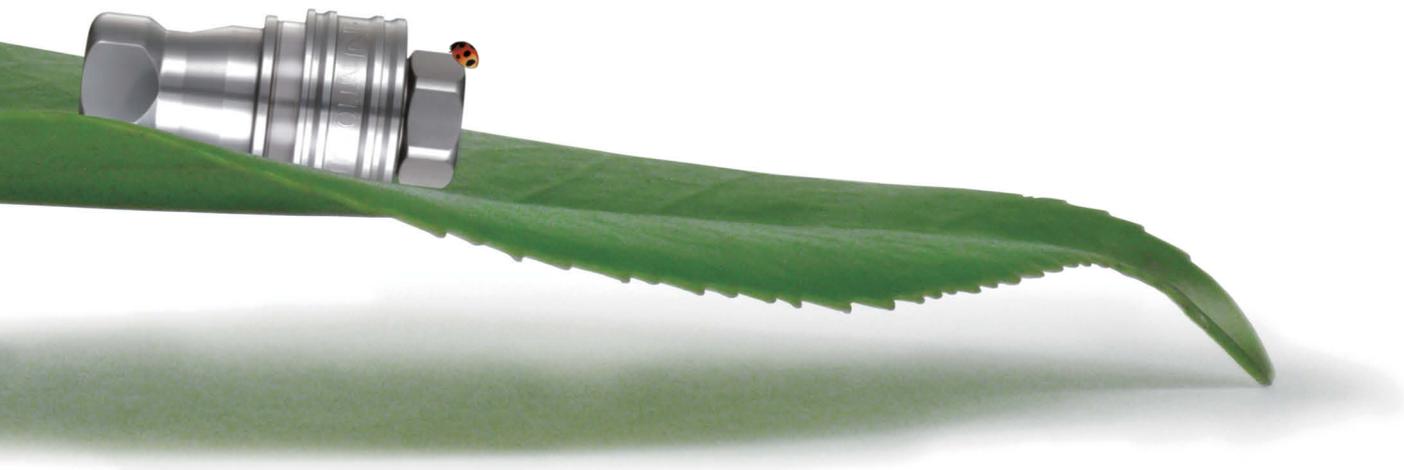


NITTO KOHKI CO.,LTD. Environmental Report

日東工器株式会社 環境報告書

2010

環境問題への取り組みを通して
持続的な発展を目指します



目次

Contents

編集にあたって

発行目的と編集方針

日東工器株式会社は、2010年度に初めて環境報告書を発行しました。株主の皆様、お取引先をはじめとするステークホルダーの皆様に向けて、日東工器の取り組みと現状を分かりやすく伝えることを目的としています。初年度となる本報告書では、事業活動に伴う環境負荷についての指標を中心に、正確で透明性の高い情報開示に努めました。今後、社会的な取り組みにも力を入れ、段階的に報告対象を拡大させていきたいと考えております。

対象期間

2009年4月～2010年3月

対象範囲

原則として、日東工器株式会社（本社）を対象としています。また参考として、子会社の栃木日東工器、白河日東工器、メドテックの環境負荷の状況報告を含んでいます。

発行時期

発行日：2010年6月4日／次回発行：2011年6月予定

ガイドライン

参考：環境省「環境報告ガイドライン（2007年版）」
GRI「サステナビリティレポートガイドライン（G3）」

お問い合わせ先

日東工器株式会社 コンプライアンス室
TEL：03-3755-1111（代）
FAX：03-5700-7192
URL：<http://www.nitto-kohki.co.jp>

免責事項

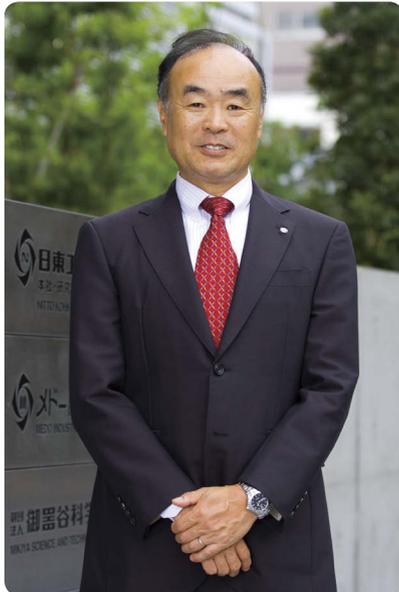
この報告書には、日東工器の過去と現在の事実だけでなく将来についての計画、予想および見通しの記述が含まれています。これらの記述は、現時点で入手できた情報に基づいた仮定ないし判断であり、諸条件の変化によって将来の事業活動の結果や事象が予測とは異なる可能性があります。

編集にあたって	1
ごあいさつ	2
事業分野	3
財務報告	5
Chapter 1 内部統制・コーポレートガバナンス	6
● 取締役会の役割	
● 内部統制の整備および運用状況	
● コンプライアンス	
● リスクマネジメント	
Chapter 2 環境マネジメント・ISO14001認証	7
● 環境マネジメント体制	
● 環境マネジメントシステムの構築・運用状況	
● ISO14001認証取得状況	
● 環境教育の実施	
● 環境に関する規制の遵守状況	
● グリーン調達	
Chapter 3 環境への影響について	9
Chapter 4 地球温暖化対策と実績	11
● 地球温暖化防止に向けた目標	
● エネルギー起源CO ₂ の削減	
● 改正省エネ法への対応	
Chapter 5 廃棄物の削減	12
● 廃棄物削減の方針および状況	
● リサイクル・回収の取り組み	
● コピー用紙使用量の削減	
Chapter 6 生産部門の取り組み	13
● 栃木日東工器株式会社	
● 白河日東工器株式会社	
● 株式会社メドテック	
Chapter 7 日東工器本社・オフィス部門の取り組み	15
● ルーバーで壁面の輻射熱を90%カット	
● 空調のハイテク化で30%の省エネ効果	
● 雨水をトイレの洗浄に使用	
● 緑の中の本社に	
Chapter 8 製品開発	17
● 環境配慮設計	
● 環境配慮製品の提案	
Chapter 9 地域とともに	18



ごあいさつ

環境問題への 取り組みを通して永続的な 発展を目指します。



日東工器株式会社 代表取締役社長

小武尚之

日本のモノづくりの原点は、石器や縄文・弥生式土器など悠久の昔まで遡ります。それから気の遠くなる時が経過し、私たちの祖先はその歩みの中で一貫してモノづくりに励んできました。

しかし、21世紀に入り10年目の現在、日本そして世界のモノづくりは避けて通れない大きな困難に遭遇しています。

限りある資源、環境問題、そして人口急増などの制約により世界は、かつての幾何級数的な経済成長を望めない状況に追い込まれました。大量生産・大量消費に代わって、環境に過大な負荷をかけず、資源を有効活用する循環可能なグリーンエコノミーが、モノづくり会社の私たち日東工器にとり、喫緊の課題となったのです。

日東工器は「時代のニーズに応じた製品開発」、「信頼性が高く、誠実な技術」を基本とした独創的な製品を世界市場に送り出し、卓越した性能・品質によりお客様の高い評価をいただいています。そうしたモノづくりと並行して、弊社は機械工具業界において、早い段階から環境への取り組みを始めたのを誇りとしております。

2001年には生産子会社の栃木日東工器株式会社が環境マネジメントシステムの国際規格「ISO14001」認証を取得し、その後、本社・研究所やグループ会社、海外子会社へとその認証範囲を広げています。

製品開発プロセスにおいて、従来の性能・品質はもちろんのこと、DfE (Design for Environment=環境配慮設計) を採用して、省エネ性・省資源性・汚染防止性などの環境対応性を設計段階でチェックした製品作りに努力しています。

また、弊社独自の「グリーン調達ガイドライン」をいち早く策定し、RoHS指令をはじめとした各法規制を遵守し、欧州向け製品だけでなく、全世界で販売する全製品を対象に環境負荷の少ない製品を開発・生産しています。

さらに、近い将来、実用化が大いに期待される燃料電池自動車用の高圧水素充てんカプラ「HHVカプラ」のような、環境対応分野の製品をより多く開発することも私たちの使命と考えています。これからは、環境対応のメーカー製品を選んで購入するお客様がますます増えてくるでしょう。

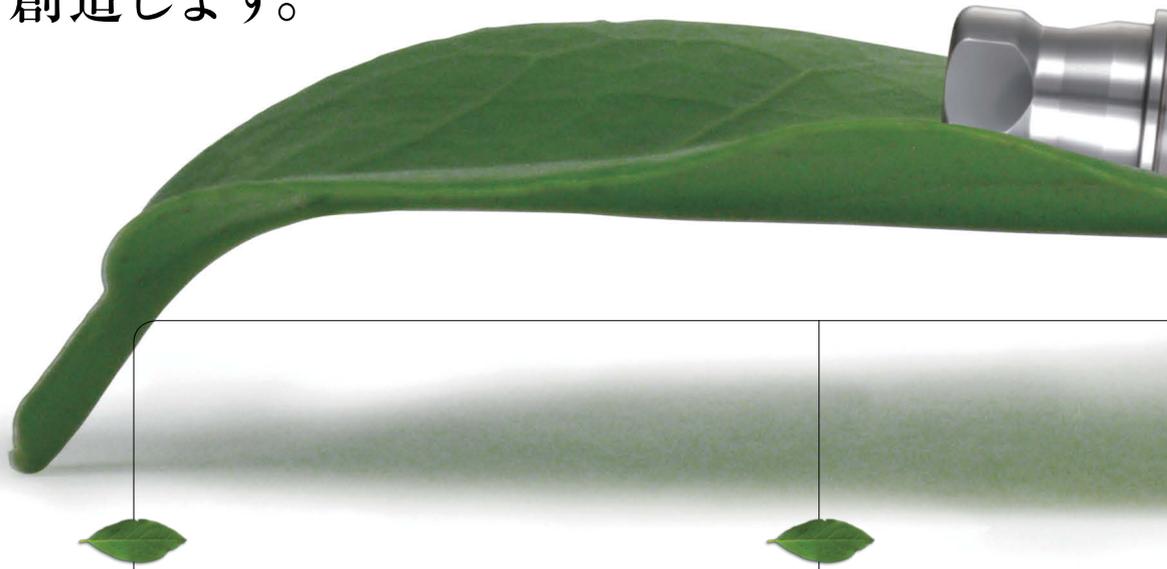
日東工器は、社会への貢献と信頼を高めるコーポレート・ガバナンス強化と併せて、地球環境に配慮した事業活動を展開することで永続的な発展を図ってまいります。

事業分野

日東工器は「開発は企業の保険なり」を社是に、独創的な技術による事業活動を展開してきました。日東工器はモノづくりを追求するメーカーとして「時代のニーズに応じた製品開発」、「信頼が高く、誠実な技術」を基本とし、半世紀以上にわたって事業を営んでいます。その事業は ①25,000種におよぶ迅速流体継手「カブラ」②鋼材穴あけ加工機「アトラ」や溶接のスパッタ取り工具「ジェットタガネ」などの機械工具 ③リニア駆動ポンプ・その他のポンプとその応用製品 ④ドアクローザの建築機器他の4分野で構成されており、その卓越した性能・品質によりいづれも高い顧客満足度を得ています。社是にある「開発」とは技術・製品だけでなく、マーケティング（営業）、人材育成などのイノベーション（創造的な変革）を意味しています。日東工器は、開発の深耕を軸とした経営によって、今後とも一層の成長・発展を目指していきます。

作業の省人化・省力化を軸に
産業の未来を創造します。

Main products



Couplings

Machines & Tools

① 迅速流体継手（カブラ）



迅速流体継手「カブラ」は、空気・ガス・水・油など様々な流体の配管を素早く、確実に接続・切り離しできる製品です。工場内の各種配管、油空圧機器、半導体製造装置、燃料電池（車両の水素ガス充填用〈写真左〉）など産業用から家庭用まで、25,000種類にもおよぶ製品群がさまざまな分野で使用されています。名実ともに世界トップクラスのシェアを誇るカブラですが、さらに環境対応製品（ゼロスピルカブラ〈写真右〉）など、従来と異なる用途・分野にも積極的に取り組んでいます。

② 省力化機械工具



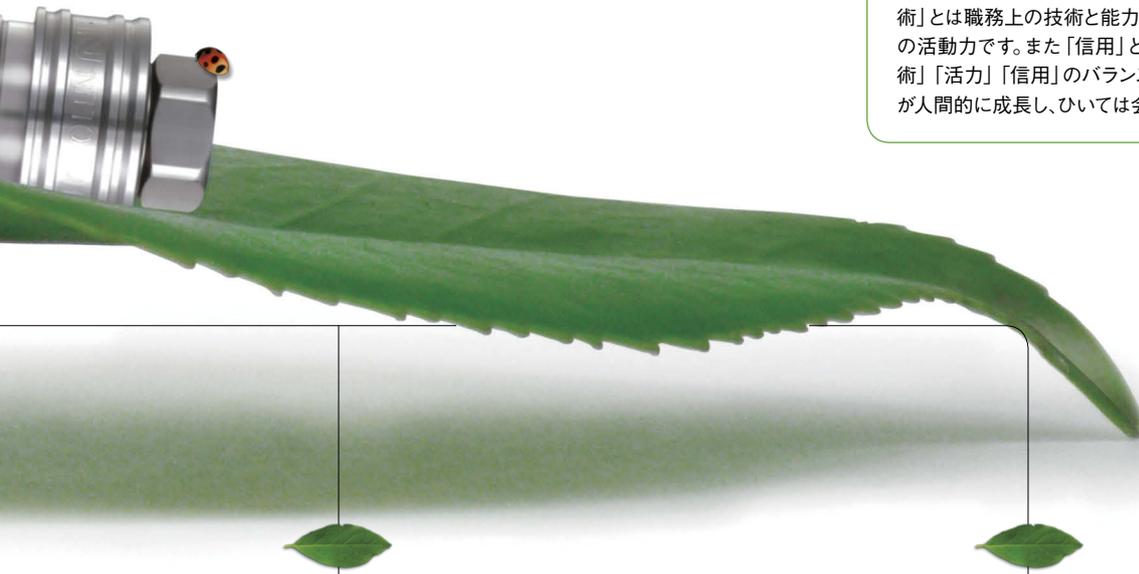
機械工具は、鋼材の穴あけ、研磨、剥離など各種金属の加工用製品と組立工場などのねじ締め作業に使用されている電動ドライバを扱っています。環境配慮製品のMLG-70（写真左）は、小型軽量を追求し、30%の軽量化（当社従来品比）を実現、新素材ブレードの採用でエアモータの長寿命化を図っています。また、ブラシレスデルボ（写真右）は、ブラシレスモータの採用により、高速回転と出力トルクの高効率化、長寿命化を実現しています。

会社概要

- 商号：日東工器株式会社
- 設立年月日：昭和31年10月22日
- 本社所在地：東京都大田区仲池上二丁目9番4号
- 資本金：18億5032万円（東証一部上場：機械業）
- 従業員数：単体 419人（連結 988人）
- 国内グループ会社：5社
日東工器株式会社、
栃木日東工器株式会社、
白河日東工器株式会社、
株式会社メドテック、
メド産業株式会社
- 海外グループ11社
アメリカ、ドイツ、イギリス、フランス、
韓国、タイ、オーストラリア

（2010年3月31日現在）

主要製品



Pumps

3 リニア駆動ポンプとその応用製品



リニア駆動ポンプは小型で軽量、作動音や振動が少なく、低消費電力、長寿命などが特徴で、日東工器が初めて実用化した製品です。オイルレスのためクリーンな空気源が求められる医療機器、浄化槽（プロワLAM-150/200〈写真左〉）などで活躍しています。他にも、圧電素子で駆動する「ユニモルポンプ」、電磁ダイアフラムやDC駆動など、各種真空ポンプ・コンプレッサをラインアップしています。その用途は、医療・福祉・健康機器・環境関連機器（ピュアハンドII AS-200〈写真右〉）など、さまざまな分野へと拡大しています。

社 是

開発は企業の保険なり

社是にある「開発」には
4つの意味が含まれています。

- ① 社会に貢献する製品開発
- ② 販売市場の開発
- ③ 人材開発
- ④ 組織管理体制の開発

これらの開発に全力を尽すことが、会社の経営体質を強化し会社の持続的発展を保証する、すなわち「保険」であるということです。

社 訓

- 創意を発揚し技術を蓄積しよう
- 鋭気を涵養し活力を蓄積しよう
- 誠意を尽くし信用を蓄積しよう

職場は社員の人格形成の場であり、素晴らしい人生を送ってほしいという願いを込めた社訓で、社員の行動基準を示しています。「技術」とは職務上の技術と能力のことで、「活力」とはファイト盛んな心身の活動力です。また「信用」とは世間の信頼を得る力です。これら「技術」「活力」「信用」のバランスを保ちながら蓄積していくことが、社員が人間的に成長し、ひいては会社の発展につながります。

Door Closers

4 建築機器（ドアクローザ）



油圧とスプリングにより、ドアを静かに、安全に閉めるドアクローザ。当社ブランドの「オートヒンジ」は、開き戸用（写真左）と引き戸用（写真右）の2タイプがあります。いずれも取り付けが容易で、軽量・コンパクトなことからデザイン性が重視されるドアまわりに最適です。最近ではバリアフリーの観点から、公共施設や家庭でも引き戸の採用が増えており、ドア重量が数キロから200キロを超えるさまざまな引き戸に対応できる製品群を揃えています。

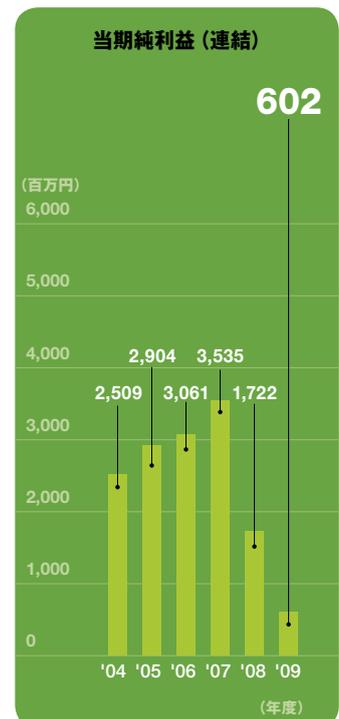
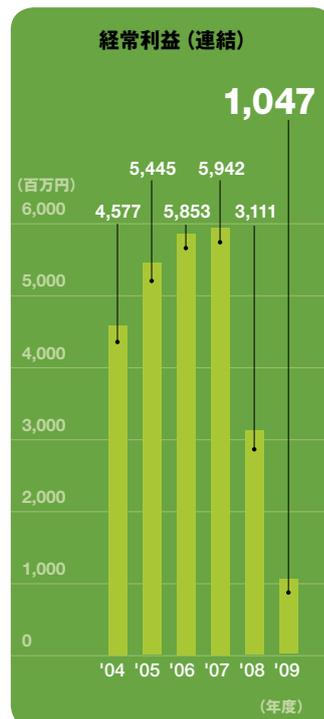
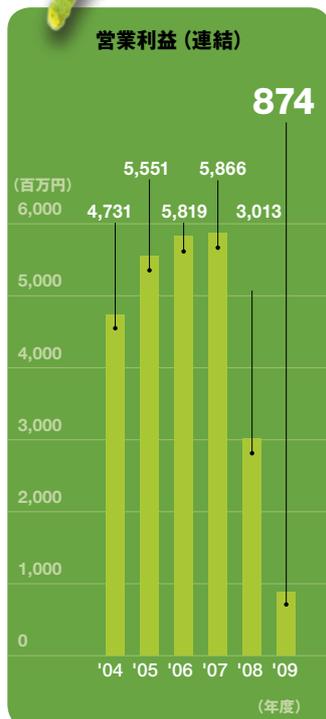
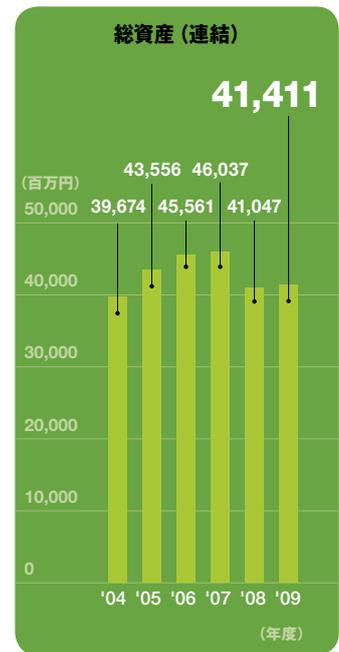
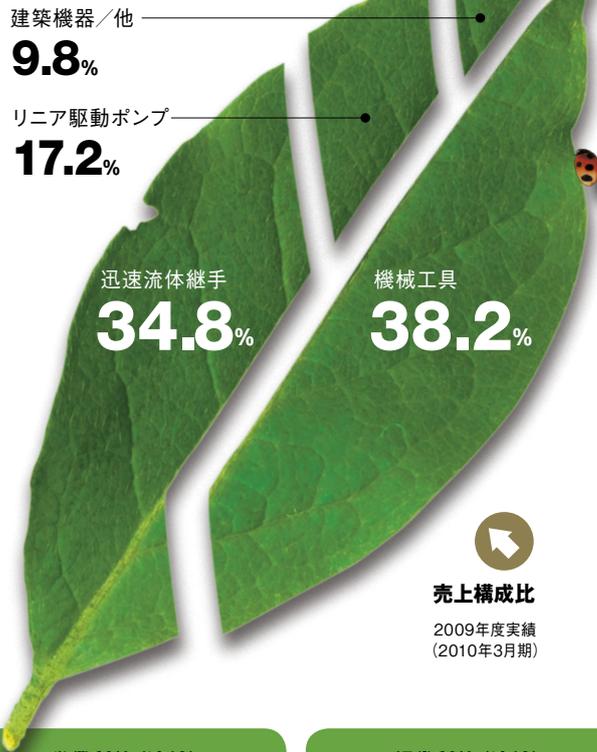
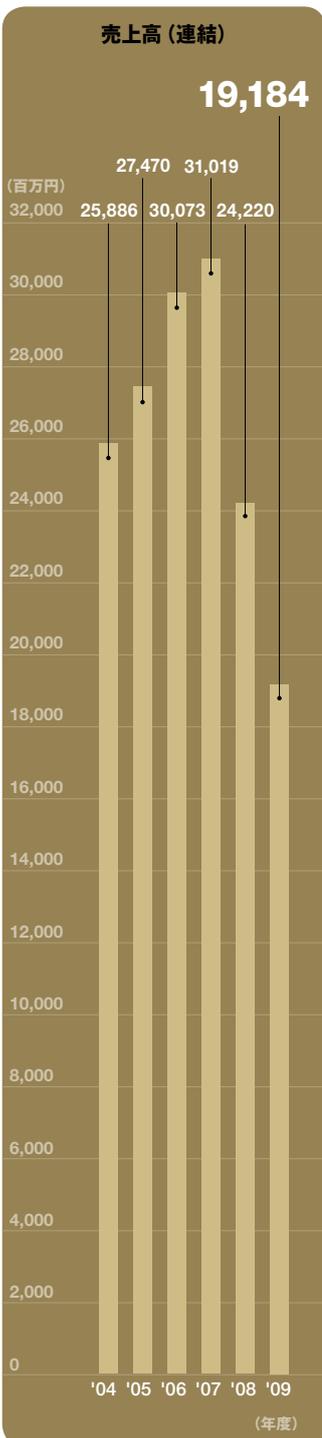
財務報告

日東工器は、製品開発で独自の強みを追求する一方、経営では堅実さを第一としてきました。世界的な大不況により、当社を取り巻く事業環境は厳しい状況が続くと予想しております。このような景況下で、当社は経費削減やコストダウンを継続して進め、健全な経営体質の維持と、利益確保に努めています。

常に健全な財務体質を維持し、
堅実に前進し続けます。

経営指標

(連結決算指標)





環境方針に則り、経営の一環として環境保全に取り組みます。

日東工器は、環境保全を企業として当然果たすべき社会的責任と認識し、重要な経営課題として位置づけています。以下のような形で「環境方針」を制定し、環境マネジメント体制を確立して、すべての業務の中で環境負荷軽減に努めています。

環境方針

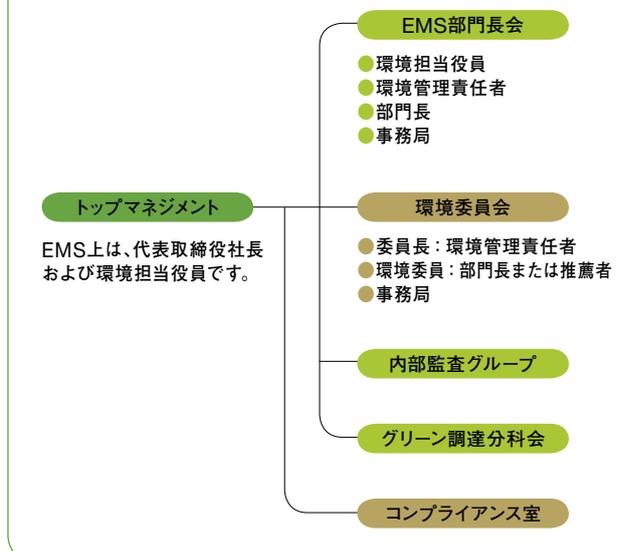
理念

日東工器株式会社は、産業界の省力化と作業環境の改善を不変のテーマとし、独創技術による高品質・高機能・高信頼性の製品づくりに適応して来ました。製品を通じての地球環境への取り組みばかりでなく、事業活動を通じて地球環境への負荷軽減が当社の果たすべき重要課題であると認識し、全ての面で社会的責任を果たします。

基本方針

- 1 | 日東工器株式会社は、迅速流体継手「カブラ」、機械工具（空圧機器/油圧機器/電動機器）、空気圧縮機・ポンプおよびそれらの応用製品、建築機器（ドアクローザ）などを提供する事業を通じ、製品設計から販売までの全ての業務において環境保全に努めます。
- 2 | 環境配慮の製品設計、グリーン調達・購入、省資源・省エネルギー、リサイクルの促進、廃棄物の削減などに取り組み、環境汚染の予防に努めます。
- 3 | 環境関連の法規制、および当社が合意した協定事項を遵守します。
- 4 | 環境目的・目標を設定し、運用し、定期的に内部監査・マネジメントレビューを行い、環境マネジメントシステムを継続的に改善します。
- 5 | この方針は文書化し、全従業員に周知徹底すると共に、社外からの求めに応じて公開します。

環境マネジメント体制



■ 環境マネジメント体制

環境マネジメントを推進する体制として、EMS(Environmental Management System)部門長会、環境委員会、内部監査グループ、グリーン調達分科会を設置し、コンプライアンス室を事務局としています。

■ 環境マネジメントシステムの構築・運用状況

ISO14001環境マネジメントシステムに準拠した「環境マニュアル」に基づき環境マネジメントシステムを構築・運用しています。運用に当たっては、次のように実施しています。

① EMS部門長会議の開催

定例EMS部門長会議を3月初旬に開催し、来期のEMS組織と役割、定期審査日程と来期に向けての日程、今期の内部環境監査結果の伝達などを行います。

② 環境委員会の開催

毎月各部門の「環境管理実績報告書」を基に、目的・目標に対

する実施・進捗状況を確認。また、EMSの維持管理と各部門への伝達などを行います。

③ 内部環境監査の実施

年に2回、内部環境監査員による各部門の監査を実施。定例内部環境監査委員会を6月末に実施し、定期審査と前期の内部環境監査結果の伝達などを行います。

④ マネジメントレビューの実施

環境管理責任者は年1回、4月に定期レビューを行い、「マネジメントレビュー記録」と「環境マネジメント実施状況報告書」を作成してトップマネジメントに報告します。

■ ISO14001認証取得状況

日東工器本社、栃木日東工器、メドテックは認証取得済、白河日東工器は認証取得予定。海外ではNITTO KOHKI COUPLING (THAILAND)とNITTO KOHKI (THAILAND)が認証を取得しています。

拠点名	認証年月
● 日東工器本社	2004年 5月
● 栃木日東工器	2001年 11月
● NITTO KOHKI COUPLING (THAILAND)	2009年 8月
● NITTO KOHKI (THAILAND)	2009年 8月
● メドテック	2010年 3月
● 白河日東工器	2011年 1月(※)

※取得予定

■ 環境教育の実施

環境保全に対する認識を深め、環境マネジメントシステムを有効に機能させるためにさまざまな環境教育を実施しています。社内では広く従業員を対象とした一般教育、環境関連資格者のための専門教育、内部環境監査員のためのレベルアップ教育、各部門内での業務内容に合わせた部内教育が実施され、お取引先には当社の環境に対する取り組みをより理解していただくための説明会を開催しています。



お取引先への説明会の模様

■ 環境に関する規制の遵守状況

2009年度は環境に関する法律違反・指導はありませんでした。法令に基づいた定期的な測定や環境保全に関わる設備の維持管理を行い環境汚染の防止に努めています。

本社新社屋の建設にあたり、敷地内の土壌汚染調査、旧社屋解体時のアスベスト飛散防止対策を行いました。また、工事による騒音などに関する近隣住民の皆様からの苦情に対しては、迅速に誠実な対応を行いました。

■ グリーン調達

日東工器グループ各社は、グリーン調達分科会を中心に「グリーン調達ガイドライン」を制定し、環境保全活動を積極的に取り組んでいるお取引先からの調達を推進しています。お取引先の実情を調査し、環境負荷が少なく環境管理物質（化審法やRoHS指令などの規制化学物質）を含まない材料・部品・ユニット・付属品や包装材などの調達に取り組んでいます。なお、特注品などの未対応品についても引き続きグリーン調達を推進していきます。

グリーン調達基本方針

日東工器グループ各社は、日東工器製品を構成する部品と副資材に含有する環境管理物質、および製造工程における環境管理物質の物質名と管理区分を明確にして、使用禁止および使用低減を推進し、法令遵守・地球環境保全および生態系に対する影響を軽減します。

適用範囲

日東工器グループ各社が製造または販売するために調達する全ての原材料、部品、製品、副資材に適用します。

グリーン調達の主な対応内容

- RoHS指令や各国内法規制への対応。標準品のRoHS指令対応は完了。特注品については順次対応中。
- REACH規則への対応を推進。
- 環境管理物質（化審法やRoHS指令などの規制化学物質）のデータベースの構築を推進。



環境方針に則り、経営の一環として環境保全に取り組みます。

日東工器株式会社

INPUT

エネルギー	購入電力	2,011.1千kWh	ガソリン	44.4kℓ
原材料	鉄	48.6t	ステンレス	0.3t
	プラスチック	0.5t	複合材料	14.3t
水	上水	2.7千m ³	雨水	1.9千m ³

栃木日東工器株式会社

INPUT

エネルギー	購入電力	2,508.8千kWh	ガソリン	2.1kℓ
	灯油	151.8kℓ	LPガス	0.9千m ³
原材料	鉄	508.3t	ステンレス	64.3t
	アルミ	39.9t	その他金属	3.5t
	ダンボール	25.9t	紙	0.6t
	OA用紙	1.5t		
水	上水	1.6千m ³		

白河日東工器株式会社

INPUT

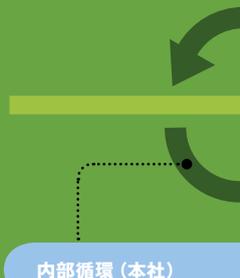
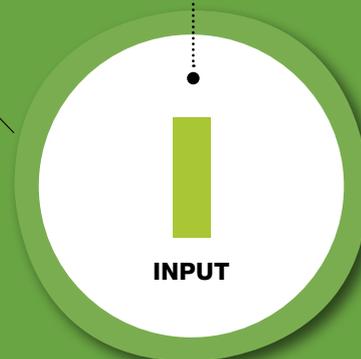
エネルギー	購入電力	1,382.8千kWh	ガソリン	0.9kℓ
	重油	17.0kℓ	灯油	1.6kℓ
原材料	鉄	217.0t	ステンレス	3.2t
	アルミ	7.6t	その他金属	1.4t
	ダンボール	24.2t	紙	1.6t
	OA用紙	0.4t		
水	上水	2.4千m ³		

※原材料の対象期間は2009年10月1日～2010年3月31日

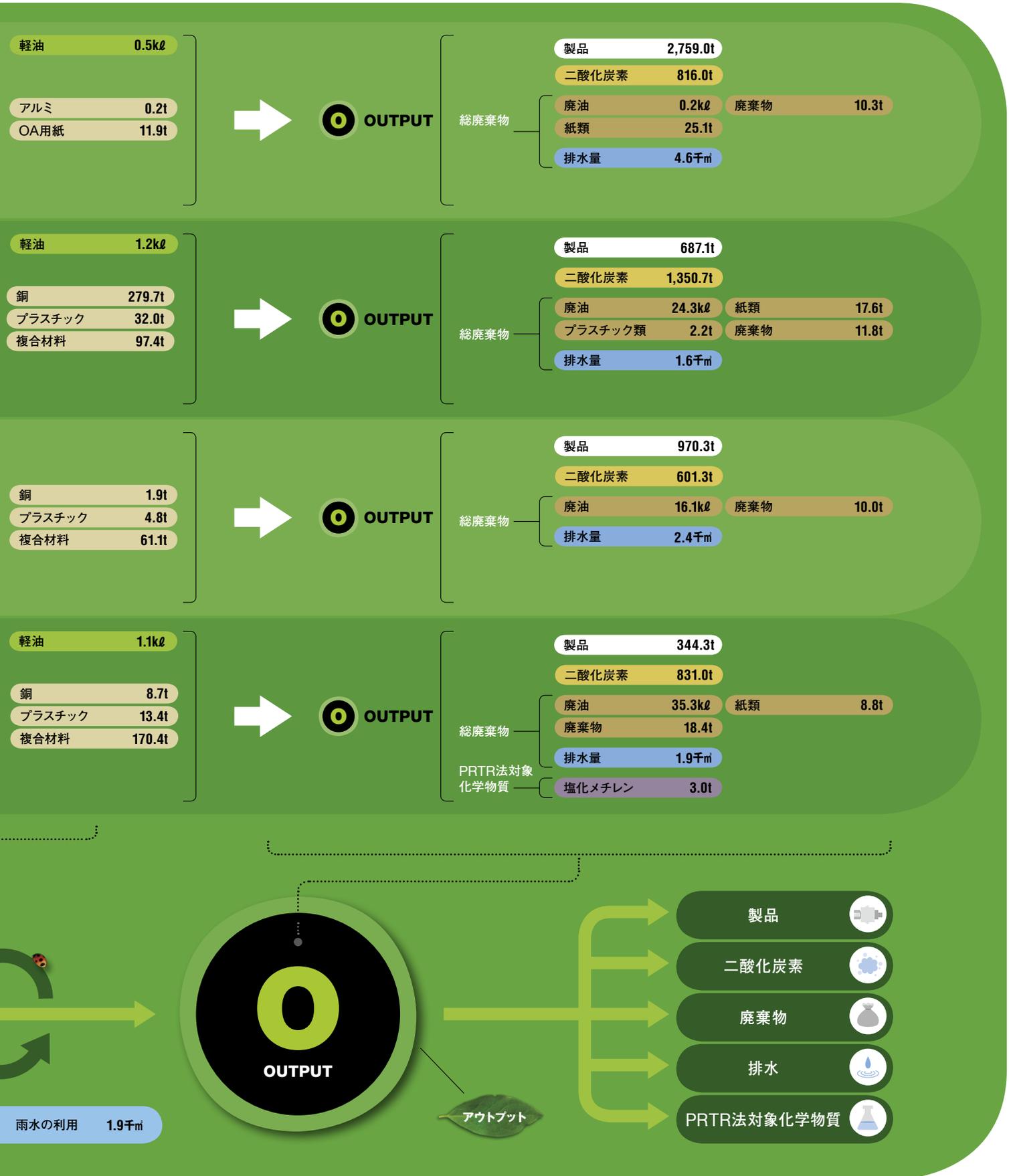
株式会社メドテック

INPUT

エネルギー	購入電力	1,784.2千kWh	ガソリン	1.7kℓ
	灯油	24.4kℓ	LPガス	1.3千m ³
原材料	鉄	182.9t	ステンレス	0.7t
	アルミ	28.0t	その他金属	0.5t
	ダンボール	22.6t	紙	3.1t
	OA用紙	0.9t	化学薬品	3.0t
水	上水	1.9千m ³		



日東工器の国内拠点において、2009年度に投入したエネルギー量・水資源量・原材料その他購入品の量と、排出した環境負荷量・廃棄物量および製品として出荷した量は次のとおりです。





省エネ・省資源に努め、 CO₂の排出を削減していきます。

日東工器は、環境方針に則って目標を定め、地球環境温暖化防止のため省エネ・省資源への取り組みを推進しています。

■ 地球温暖化防止に向けた目標

日東工器は、国の温室効果ガス排出量を2020年までに1990年比25%削減する目標が設定され、環境省主導の地球温暖化防止のための国民的運動である「チャレンジ25キャンペーン」に参加し、CO₂削減に向けた活動を展開し、地球温暖化防止に向けて、CO₂排出量を2010年度に2004年度比15%削減する目標を掲げています。日々の営業活動に使用している自動車については、2006年より買い替え時にハイブリッド車への切り替えを実施し、2009年までの4年間で18台を切り替えました。日東工器で使用している車はバンタイプが多く、バン仕様のハイブリッド車が発売されると、切り替えもスピードアップすると思われます。

2008年度から2009年度にかけての本社社屋建て替え工事の実施や、これに伴うグループ会社の編入によるフロア面積と人員の増加により、2009年度の実績は816.0tで、削減率は2004年度比で3.0%と目標達成が厳しくなっていますが、少しでも目標値に近づけるよう努力しています(図1参照)。

なお、その他の温室効果ガスについては、排出量が微少なため、今回の報告事項からは削除しています。

■ エネルギー起源CO₂の削減

エネルギー起源CO₂の2009年度排出量は、788.1tでした。前述の通り、本社社屋建て替え工事の実施や、これに伴うグループ会社の編入によるフロア面積と人員の増加により、2004年度比5.8%の増加となっています。特に、電力使用量によるCO₂の2009年度排出量は、683.8tでした。やはり2004年度比7.5%の増加となっています(図2参照)。

今後は2009年度をベースに削減を図っていきます。

■ 改正省エネ法への対応

2010年4月に施行された改正省エネ法では、エネルギー年間使用量が原油換算で1,500kℓ以上の企業が、企業単位で定期報告書、中長期計画書の提出が義務付けられる「特定事業者」の指定を受けます。日東工器本社の年間使用量は557kℓであり、特定事業者とは見なされませんが、省エネを企業経営の重要課題と位置づけ今後も取り組みを充実させていきます。

図1 CO₂排出量の推移(日東工器本社)



図2 電力使用量の推移(日東工器本社)

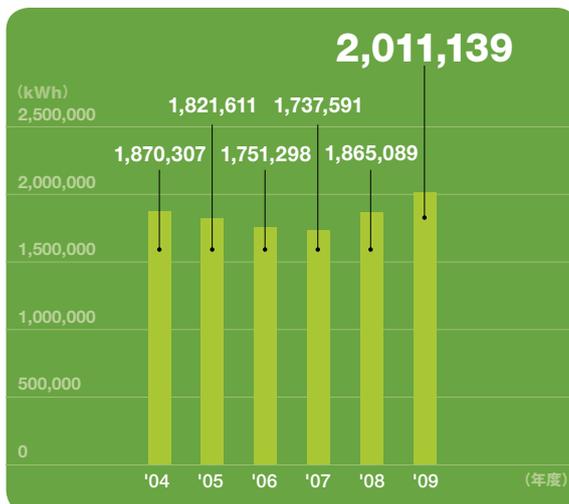
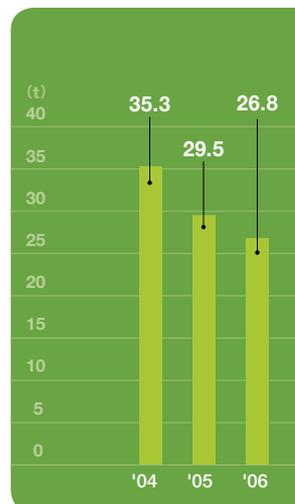


図3 廃棄物量の推移





資源を最大限有効活用し、 地球とユーザーに貢献します。

資源を最大限有効活用することは、メーカーとして最も大切な精神の一つです。日東工器は、廃棄物の削減、リユース、リサイクルの推進を通して、コスト削減と環境保全を両立し、地球とユーザーに配慮したモノづくりを推進していきます。

■ 廃棄物削減の方針および状況

資源を最大限有効活用すべく、リユース、リサイクル、廃棄物の削減を推進し、ごみゼロを目指して活動しています。本社社屋建て替え工事による引越しに伴い、開発試作品、サンプル品などを大量に廃棄しました。順調に削減効果が出ており、2008年度の廃棄物量は、2004年度比38.5%の削減となり、さらに2009年度の廃棄物量は10.3tと、前年度比52.5%、2004年度比70.8%の削減となりました(図3参照)。従来ごみとして廃棄していたものを、リユース、リサイクルに徹してきた成果が現れたと理解し、今後も引き続きごみゼロを目指して活動していきます。

■ リサイクル・回収の取り組み

過去においては、リサイクルに対する意識が低く、不必要となったものはすべて廃棄していましたが、7年前からリサイクル・回収活動・環境に関する教育を開始しました。特に、活動当初は紙類のリサイクルについての効果が大きく、2008年度のリサイク

ル量は、2004年度比69.7%の増加となり、環境負荷軽減に貢献できました。

なお、2009年度は引越しによる資料、本、雑誌類の整理が一段落したことも影響し、リサイクル量は半減しました(図4参照)。

今後も分別を徹底し、リサイクルを推進していきます。

■ コピー用紙使用量の削減

各種資料のコピーは、特別な対応をせずに行っていましたが、使用済みコピー用紙の裏面使用、両面コピー、すべての資料をコピーせずに説明に必要なページだけをコピーすることによる会議資料の削減や、積極的な資料の電子化を図ることにより、2009年度のコピー用紙使用量は、2004年度比28.8%の削減ができました(図5参照)。

また、会議資料の削減と資料の電子化を図ることにより、資料保管のためのファイルと棚の大幅な削減と、フロアの有効活用も促進できました。

(日東工器本社)

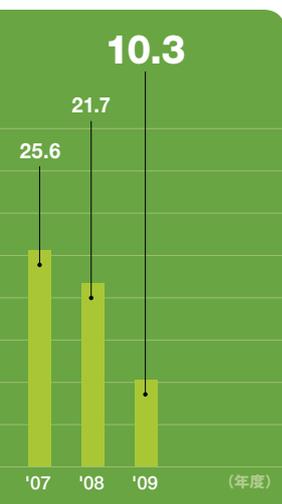


図4 紙類リサイクル量の推移 (日東工器本社)

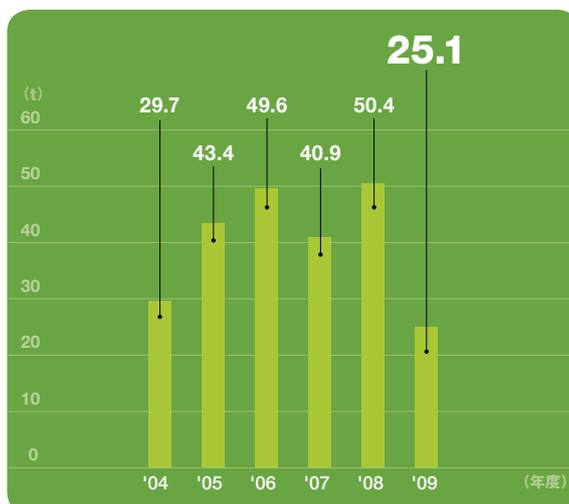
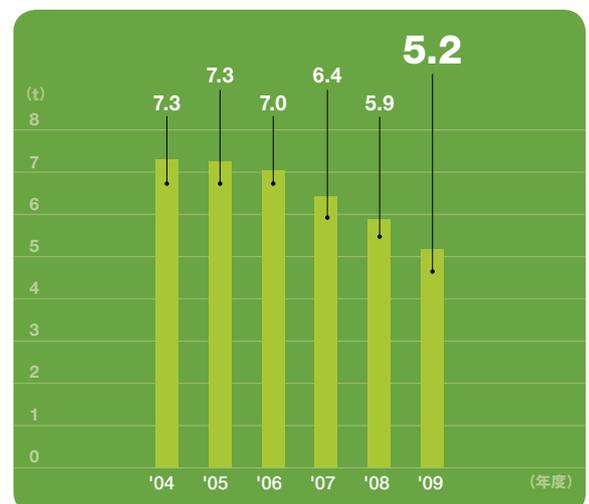


図5 コピー用紙使用量の推移 (日東工器本社)





安全・品質・環境に配慮し、 より効果的な取り組みを推進します。

メーカーである日東工器にとって、生産現場での環境の取り組みは非常に重要です。多岐にわたる製品を生み出すそれぞれの生産拠点でどのような取り組みが行われているのか、国内の主要な生産拠点を例にとって、ご覧いただきます。

拠点概要

栃木日東工器株式会社



事業内容：迅速流体継手（カブラ）の製造、
リニア駆動ポンプの組立
従業員数：162名

拠点概要

白河日東工器株式会社



事業内容：電動ドライバ、建築機器、ドアク
ローザ
従業員数：73名

拠点概要

株式会社メドテック



事業内容：空気・油圧・電動式の各種省力
化機械ツールの製造
従業員数：83名

栃木日東工器株式会社



■ 環境にやさしい生産工場に向けて

当社は、日東工器の主力工場として、空気・ガス・水・油などさまざまな流体の配管を素早く、確実に接続・切り離しできるカブラ（迅速流体継手）やリニア駆動ポンプおよびその応用製品である健康機器などの生産と出荷を担当しています。

1995年11月にISO9002の認証（2003年11月 ISO9001格上げ認証）を取得、自然環境の悪化に危機感を抱き、少しでも環境保全のプラスになる活動を、という意識のもと、2001年11月には、グループ内でいち早くISO14001の認証を取得しました。

現在もTPM活動から進化させた当社独自の小集団活動である生産革新活動を運用の軸とし、ロス削減や作業効率化を目指しながら、同時に環境負荷軽減活動への取り組みを続けています。

当初は一般的な紙・ごみ・電力の低減活動からの開始でしたが、ISO14001の環境維持および改善活動の現在までの成果は、他に誇れる状況となっています。活動当初比では、紙類の使用量を2010年3月で58%削減しました。同様に、ごみの排出量は61%の削減、電力使用量低減では2005年度からの5年間で約79万kWhの改善を行ってきました。

ISO14001に基づいた活動だけではなく、製品の製造にかかわるあらゆる場面でも、環境への配慮を続けています。工作機械に使用する切削油や潤滑油を主体とした油脂類の有効利用や使用量の削減、購入品全般に対するグリーン購入指向を高めた物品購入も環境活動の一翼を担っています。これらの継続的な環境改善活動は、遵法の意識を大事にすることはもちろん、社員一同、環境にやさしい生産工場としての理想追求の一過程と考えています。



白河日東工器株式会社



当社は、ネジ締め精度が高く、高性能・高品質の電動ドライバや独創的技術のドアクローザの生産を担っています。生産にあつてはC-TPM活動による効率改善に取り組み、省力化および環境配慮製品を通じて、社会貢献を行っています。

また、当社の環境活動においては、環境負荷低減を目指した、ごみの分別を進めています。紙資源のリサイクルをはじめ、ペットボトル・飲料用缶の分別後の回収は、その全てを地域社会貢献の一環として知的障害者授産施設である「甲子の里（かしのさと）福祉会」にお願いしています。さらにペットボトルのエコキャップ活動にも取り組んでいます。

また、環境資源の重要性を理解・認識するために、従業員全員に「マイ箸」を支給し、割り箸の使用を止めました。

当社は、2010年度のISO14001取得に向けて全社挙げて従業員教育、設備環境の見直しを進めており、より環境にやさしい工場を目指していきます。



株式会社メドテック



当社は、「省力化・省人化と作業環境の改善」というコンセプトのもと、鋼材の切断・研磨・剥離・穴あけ・面取りなど、さまざまな加工現場で使用されている空圧・電気・油圧を駆動源とした機械工具を生産しています。

2010年3月、ISO14001を認証取得し、「明日（みらい）に残そうきれいな地球」をスローガンに環境活動・安全活動・TPM活動を通して、溶剤の大気放出量削減・産業廃棄物削減など、それぞれの分野でリスクを捉え削減に取り組んでいます。

また、不良・廃棄物・資源・工数・機械アイドル時間・移動・仕掛り・スペース・在庫過剰などあらゆるムダ取りで生産効率の向上を図り、省エネ・省資源化に全員で取り組んでいます。

2009年度は工場内コンプレッサの運転効率向上に取り組みました。空気圧の漏れや使用機械の適切な運転の診断を行い、3台あるコンプレッサの稼働を常時稼働2台に変更し1台は停止、3台でローテーションを組み使用電力量の削減とコンプレッサの延命を図りました。2010年度は日東工器ブランドのフルブローカブラ・エアライナーを用いたエア配管改善で、さらに省エネルギー化を進めていきます。



水系回転式 精密洗浄機を導入し、 環境・品質要求に対応

内の工場では、従来部品の洗浄にアルカリ洗浄液を使用していましたが、洗浄液の使用量の削減・抑制と廃液処理などの環境問題がクローズアップされ、1998年度から順次、人の健康や環境への影響が懸念されるアルカリ洗浄液を使用しない、環境にやさしい水系による洗浄に切り替えてきました。

の洗浄機は、部品を回転させることで得られる強力な洗浄作用により、表面の汚れや袋穴の切削くずを取り除きます。また、洗浄液が部品を洗浄している間にその洗浄液を洗浄し、排水量をほぼゼロにすると共に、オイルと洗浄液が再利用可能な状態に分離回収されます。さらに、洗浄液の温度と濃度を常に一定に保ち、フィルター清掃を行っているため洗浄能力が落ちません。

な お、2010年度に設備を更新する工場では、同タイプの洗浄機を導入することが決定しています。



▲水系回転式精密洗浄機



緑の中の新本社・研究所で、 省エネとともに環境への 意識を育みます。

日東工器は、2006年度から「緑の中の本社・研究所」をコンセプトに、段階的に本社社屋を建て替えてきました。さまざまな環境への配慮により、建築物総合環境性能評価システム (CASBEE) で、新社屋は最上級の「S」にランクされています。

■ ルーバーで壁面の輻射熱を90%カット

建物外観の大きな特徴ともなっているルーバー（電動外部ブラインド）は、西欧の環境に配慮した建築に採り入れられている最新技術の一つです。この技術によって、理論値では壁面の輻射熱を約90%もカットし、省エネルギー化に貢献します。



壁面の輻射熱を約90%カットするルーバー（左上）、人やパソコンの熱を緩和する天井の空調設備（左下）、アンダーフロア空調（右）

■ 空調のハイテク化で30%の省エネ効果

天井にある空調は、輻射空調パネルの上部に19℃の冷水を流し、アルミ製パネルの表面を21℃～23℃に冷やす構造になっています。このパネルにより空気が冷やされ冷気がゆっくり下降して、人やパソコンからの熱を緩和して快適な温度を保ちます。加えて、アンダーフロア空調という床下から除湿した冷たい空気が送風される仕組みも導入しました。さらに外気の涼しい夜間や、気候のよい季節は、機械的な空調を停止して、窓際の天井部分から自然換気を行います。従来方式の空調に比べ、30%程度も省エネ効果があります。

■ 雨水をトイレの洗浄に使用

社屋の給水システムは雨水を地下の貯水槽に溜め込んで、トイレの排水として利用しています。その効果もあり、2006年度と比べると本社の水道の使用量はおよそ4割削減できています（下図）。研究棟も合わせて、さらに水道使用量の減少が期待できます。

雨水利用による水道使用量の削減 （日東工器本社）



■ 緑の中の本社に

コンセプト「緑の中の新本社・研究所」に合わせ、敷地全体に植栽を施しました。また、地面だけでなく、4階、5階にも屋上庭園を配置し、どこにいても社員が緑を見ることができるよう工夫しています。こうした配慮は、従業員に快適さをもたらすだけでなく、普段から環境への意識を高めることにも役立っています。新社屋とともに私たち自身の環境意識を育み、世界の未来に貢献する企業として、さらに成長していきます。



分別用の トレー・ボックスを設置 OA用紙の使用量を削減

オ フィスから発生する廃棄物を再資源化するには、分別の徹底が重要であることは言うまでもありません。本社オフィスでは廃棄物削減・再資源化割合の向上を目指し、従来の個人別のトレー・ボックスを廃止し、各フロアに数個ずつ分別用のトレー・ボックス(燃えるごみ・燃えないごみ・ペットボトル・ペットボトルのキャップ・空き缶・使用済みOA用紙・新聞・本・雑誌・カタログなど)を設置しました。これにより、廃棄物削減・再資源化向上へ寄与すると共に環境意識の向上も図ることができました。

ま た、使用済みコピー用紙の裏面使用・両面コピーなど用紙の効率的活用、会議資料の削減、電子情報媒体の積極的活用を図ることにより、OA用紙の使用量の大幅な削減を実現しました。



▲OA用紙の回収を目的としたトレーボックス

OA用紙使用量の推移





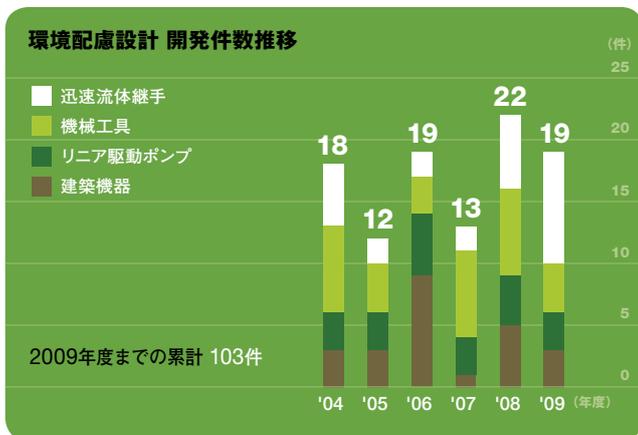
独自の技術と設計で皆様の環境保全に貢献します。

「開発は企業の保険なり」を社是とする日東工器は、研究・開発の面で大いに環境に貢献したいと考えています。環境に配慮した設計としてのDfE (Design for Environment) のクリアはもちろん、さまざまな環境保全の取り組みを、独自の技術開発で支えています。

■ 環境配慮設計

環境保全の重要性を認識し、持続可能な社会の実現に向けて、環境に配慮した設計に取り組んでいます。

新製品はDfEを取り入れ、製造、使用、廃棄の製品サイクルを通じて、省エネルギー・省資源・再資源化・環境管理物質についての自主基準を設け、より環境負荷の小さい製品の開発を目指しています。2004年度から順次反映され、2008年度以降はすべてこの基準をクリアした新製品となっています。2009年度までに環境配慮設計が反映された開発件数は103件となっています。



■ 環境配慮製品の提案

日東工器は、よりお客様に近い営業活動をめざし、「知る・知らせる」の徹底を基本に環境配慮製品を含め「提案型営業」を積極的に進めています。

お客様が、日東工器の製品・サービス・接客に、「本当によかった」と喜んでいただけること（カスタマー・デライト＝顧客感動）を追求しています。



日東工器展示ブースの様子 (写真左・中)、ゼロスピルカップラ (写真右)



水素ステーションのHHVカップラを日本で初めて開発

HHVカップラ

燃 料電池車用の水素ステーションで採用されている「HHVカップラ」。高圧水素を供給・充てんする接続部分に使用されており、これを日本で初めて開発した企業が日東工器です。

国策として進められている「水素・燃料電池実証プロジェクト」での水素ステーション。化石燃料に依存しない、次世代エネルギーの実証の場として、いま注目されています。未来のエネルギーとしてクローズアップされている水素は、ガソリンとは違い揮発性が高いため燃えやすく、取り扱いが非常に難しい物質です。

そ んな水素を扱う以上、決してミスは許されません。そのため、「HHVカップラ」は何重にも安全性を確保する必要がありました。日東工器が培ってきた独自の技術をさまざまな形で駆使し完成した「HHVカップラ」は、高圧純水素を安全かつすばやく供給することができます。その信頼性の高さから、現在では全国の水素ステーションで採用され、環境技術の重要な一端を担っています。

▶ 燃料電池車用の水素ステーションで採用されている「HHVカップラ」。





社会や地域と良好な コミュニケーションを築きます。

日東工器グループは社会や地域の皆様とともに成長する企業でありたいと考えています。事業活動または付随する活動で地域や社会に貢献し、皆様に信頼され、良好な関係を築いていくために、さまざまな活動を行っています。環境報告書の終わりにあたって、そんな活動の一端をご覧ください。

日東工器株式会社

多摩川河川敷の 美化清掃



地域社会貢献活動の一環として、大田区主催の多摩川河川敷の美化清掃活動に毎回参加しています。2009年度は、社員とその家族が総勢29名参加し、地域の方々と一緒に清掃活動を行いました。これからも継続的に参加し、地域社会との交流をより深めていきます。

白河日東工器株式会社

「南湖（なんこ）公園」 清掃ボランティア



白河市主催で毎年12月に行われている、南湖公園の清掃活動に参加しました。南湖公園は1801年に構築された日本最古の公園で、市民をはじめ多くの観光客が訪れる白河市のシンボルです。今後も清掃ボランティアには積極的に参加していきます。

日東工器株式会社

エコキャップ回収が 8万個以上に



本社から始まったエコキャップ（ペットボトルのキャップ）回収運動も営業拠点やグループ会社へ広がっています。エコキャップは社外ボランティアを通じて換金され、「ポリオワクチン」として寄付。累計で89,720個、ポリオワクチン112人分に相当します。今後も活動の輪（和）を広げ継続します。

栃木日東工器株式会社

「鬼怒川・小貝川 クリーン大作戦」参加



当社では毎年、栃木県さくら市主催の「鬼怒川・小貝川クリーン大作戦」に会社ぐるみで参加しています。2009年度も、全社をあげた参加で、河川周辺の清掃をし、流域環境の改善に努めました。こうした活動への積極的な参加を通して、地域社会との関わりを深め、発展に貢献していきます。

日東工器株式会社

本社周辺道路の 清掃活動



環境保全活動の一環として、社屋周辺の清掃活動を毎月3回定期的に実施しています。年々参加メンバーも増え、活動も賑やかになってきました。今後も周辺道路の美化を通し、地域社会の一員として、本社周辺に住む住民の方々とより良い関係を築けるよう努めます。

株式会社メドテック

周辺道路の 清掃を実施



毎月第1月曜日を「工場美化運動日」と定め、早朝に工場敷地内と周辺道路の清掃を実施しています。また、エコキャップ回収、地域ボランティアによる廃品回収への協力などを通じて、資源の再利用に協力しています。今後も、TPMで培ったスキルをバネにして、社会や地域と良好なコミュニケーションを築いていきます。

本社 ● 〒146-8555
東京都大田区仲池上二丁目9番4号
TEL ● 03-3755-1111(代)
URL ● <http://www.nitto-kohki.co.jp>



NITTO KOHKI CO.,LTD.
Environmental
Report
2010

